

甲州古道案内図

KOSHU-KODO

藤野編

● 甲州古道
 ● 国道20号
 ★ 道幅が非常に狭く、危険な場所



藤野観光案内所
 (ふじのね)
 時間 8:00~17:00
 電話 042-687-5581



藤野一里塚跡には大きな榎の木がある。ただし、道幅が非常に狭く、危険な場所なので車で注意。

KOSHU-KODO

歴史を感じさせる古道を歩いてみませんか

力士追手風喜太郎

江戸相撲の力士、4代目追手風喜太郎は寛政十一年(一七九九)年、関野宿に生まれた。幼名を松治郎と言ひ、九歳の時、同郷出身の叔父、追手風小太郎の門に入り力士となった。しこ名を黒柳と名乗り、文政七年(一八二四年)西幕内に昇進。文政十二年(一八二九年)前頭筆頭となり黒柳住右衛門と改める。天保二年(一八三一年)春場所に追手風を襲名。天保七年には西大関に昇進した。



増珠寺に寄贈にされた追手風の五具足・四神

歩道を歩くために国道を渡る時は車に十分に注意。



三軒の茶屋が現在の水面近くにあった。

この道は、現在の段階では正確に確認できていない。

獅子岩、衣が滝、茶屋

旧街道は川に沿って下っていくが、途中、獅子岩と呼ぶ巨大な奇岩が川を背にして座っている。この岩が獅子に似ているので、道中の馬が驚いて、立ち止まって動かさず困ったと言われている。さらに下った右側に、高さ三丈有余(六・八m)と言われる衣が滝と呼ばれる滝が流れ落ちている。滝の前の橋を渡り、桂川沿いに進むと三軒の茶屋があった。旅人はここで桂川の流れを眺めながら旅の疲れを癒し、甲州に入っていた。



衣瀧之圖



建設中の吉野橋(昭和7年頃)

小猿橋

現在の吉野橋から南下に掛かっていた。①長さ十四間(約二十五M)幅二間(三・六M)橋上より水際まで高さ五丈八尺(約十七・六M)の板橋で、甲斐の猿橋と工法も同じで規模が小さいことから小猿橋と呼ばれた。その後場所を少し北側の上流に移し新小猿橋(明治初期)②、更に上流に移り新猿橋(明治六年頃)③と代わり、昭和八年現在地に吉野橋が出来た。④

吉野宿本陣と土蔵

本陣は名主吉野家で、間屋も兼ねた。江戸時代末期は木造五階建ての五層楼の偉容を誇った。明治十三年の明治天皇行幸の際には昼食行在所となった。しかし明治二十九年の吉野宿の大火で焼失。本陣の土蔵だけが焼け残った。この土蔵は吉野宿で一番古い建物として当時を忍ばせる。



土蔵 本陣五層閣(裏) (正面)

現在の関野宿は歩道もなく、道幅も狭く、極めて危険。

旧街道はこれらの20号を使ったという説もある

関野宿

「新編相模風土記稿」に「是所を関野宿と唱えて継場なり 起立は慶長・元和のころより継立せしと言ひ伝う 人海の数は二十五人二十五匹を以て定額とす」とある。甲州と境を接する相州西端の地である重要性から宿場が置かれたという。本陣、脇本陣の外、旅籠は三軒で、伝馬を中心とした小さな宿場であった。

